

市民の意見を募集し1月末に決定

日田市は災害からの復旧・復興推進計画(案)を5日発表。災害に強いまちづくりを目指して、市民から計画に対する意見を求めています。

「次の災害に備えた」復興計画(案)に

計画について市民からの意見を求める期限は1月24日まで。意見を踏まえて1月末に確定します。市のホームページや振興局、振興センターに計画書をおいてあります。計画案は2018年(平成30年)から21年(平成34年)まで5年間で「次の災害に備える」計画としています。

道路・河川の復旧

甚大な被害を受けた大肥川、鶴河内川、小野川、有田川を緊急・集中的に改良復旧を行う。大肥川の事業費50億円、5年間で約8キロ。鶴河内川18億円、4年間で約4キロ。小野川11億円、3年間で2・6キロ。有田川8億円、3年間で4・5キロ。鶴河内川、小野川等においてスリットダムや既設ダム改良などを実施し、橋梁改築や橋梁の除去等を行う計画です。

内水氾濫対策

花月川の沿線で6カ所に仮設の排水ポンプを配置し、浸水被害の軽減を図ることや、その他に貯留施設の検討など市雨水対策基本計画を見直しを行う予定。

者への支援、農林業・商業、教育施設や文化財等の復旧、道路や河川の復旧、復旧・復興の人的支援、財政対策などがあります。
被災者の支援(住宅・福祉)
住宅では大鶴夜明・小野地区では地区内移転のために市営住宅の建設を予定、また避難所計画の見直しやFM放送で多様な災害情報の発信も検討しています。

農林業の支援

大型区画化により生産性の向上が期待できる被災農地では、周辺の農地と一体的に行う基盤整備事業の実施と合わせて、水田の畑地化や新たな園芸リース団地の整備の検討を行い、生産基盤の強化に向けて関係者と協議する予定。対象地区



大鶴地区上宮町、住宅横の市道の橋に突き刺さった様な状態の流木

党後援会が新年旗びらき



挨拶する山下書記長

日本共産党日田市後援会は、14日市内で新春の旗びらきを開催。諫元正枝後援会会長は、後援会を大きくすることや安倍政権の憲法改悪を許さないためにも3000万署名に取り組みと挨拶。来賓の山下魁党大分県書記長は、昨年の総選挙での支援にお礼を述べ、選挙の結果について、共産党は議席を減らしたが、

共闘勢力は38から69議席へと前進したこと。党が候補者を下したことは適切な判断だったと述べ、県内でも大分2区、3区では比例復活で野党共闘の議席を得たことは、今後の戦いにとって重要な成果と述べ、今年の沖縄の選挙への支援、来年の統一選挙、参議院選挙での躍進のためにご支援を訴えました。日隈市議、大谷市議は挨拶と活動報告、歌や芸能の後、各団体から暮らしを守る運動や憲法改悪を許さない署名運動を大きく進めて行く決意が語られました。

